



**ニッポンの事業競争力を強くする!** 事業継続等の新たなマネジメントシステム規格とその活用等による事業競争力強化モデル事業

事業概要

各グループ概要

取組紹介

イベント

事務局通信

メディア掲載

report 2013/7/19・26: 株式会社リコー・ダイキン工業株式会社  
答えは現場にある ～リコー様・ダイキン様工場見学記



グループ担当  
コンサルタント  
高橋 篤史

こんにちは。運営事務局の高橋です。

**最**近では工場を積極的に公開している企業が多く、工場見学が静かなブームを呼んでいます。確かに、私たちが日常的に接しているものがどのように生まれてくるのか、意外と知らず、その現場をのぞき見るのはとても新鮮な体験です。今回は当事業参加グループである株式会社リコー様とダイキン工業株式会社の工場を見学させていただきました。

**最**初は、株式会社リコーのグループ会社であるリコーインダストリー株式会社とリコーテクノロジーズ株式会社東北事業所の工場にお邪魔しました。足を踏み入れてまず気づいたのは、白と黄色のラインが全工場内の床に引かれていることです。これは機器の設置位置と人の導線を表し、災害発生時に危険なエリア認識し、速やかに避難できるよう考案されたものとのこと。

**ま**た当工場には「製品を作る前に、製品に必要な部品を作り、それに必要な設備を作る」というモットーがあり、これは転倒防止器具を独自で製作したり、メーカーの復旧対応を待たずに自身で機器の修繕を行うなど、事業継続の基盤のひとつとなっています。写真はトナー工場ですが、溶剤を投入してから粉体の完成品に至るまで、7日間かけて巨大な工場のプロセスを巡るのだそうです。このプロセスの要所にはエコロジーへの配慮が成されており、リサイクルシステムを支える背景を確認しました。



**次**に訪れたのは、ダイキン工業株式会社滋賀製作所様です。エアコンの室外機、室内機、大型機が組み立てられる様子を見学した後、技術棟に入りました。ここではエアコンの性能をテストするための「カロリーメーター」という設備のレクチャーを受けました。カロリーメーターは室内温度15℃～30℃、室外温度2℃～46℃という環境を作り出しており、エネルギー使用量が最も大きな設備の一つです。

— 方、動力管理室では施設全体のエリア毎のエネルギー使用量を監視し、過剰使用を検知する仕組みがあります。その後、ボイラー室、コンプレッサー室を見てツアー終了となりました。見学後、省エネルギーセンター様による管理標準のレビューが行われたのですが、見たばかりの具体的なイメージがあったた

め、「あの設備のことだな」という具合に、よく理解できました。

**当** 事業において、リコー様のグループはBCMS、ダイキン工業様のグループはEnMSIに取り組まれています。各々の観点でツアーを回ると、多くの発見がありました。内部を公開できるというのは、企業努力の成果、自信の現れであり、マネジメントシステムにおいても、解決策やそれを導く知見は現場にあると実感した次第です。これからも事業競争力が生まれる現場を精力的に回っていきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。🔥